

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

| 保険者名 | 第7期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | H30年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|---|---|---|---|------|---|
| | 区分 | 現状と課題 | 第7期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 室戸市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 介護予防・日常生活圏ニーズ調査、在宅介護実態調査のアンケートでは、65歳以上の高齢者のみで構成されている世帯が65%であり、急病や災害時の手助け、見守りや簡単な家事援助等、介護保険サービスのみではフォローしきれないものについて生活支援体制整備事業の充実が喫緊の課題である。 | 地域の実情に応じた生活支援サービスの体制整備に向けた地域課題の確認及び既に行われている住民による支え合いの好事例を集め、「できること」を見つけてもらう | ①好事例を集めた事例集の作成 第1・2層協議体や地域の方より情報提供をいただき、SCIによる現地取材を実施 目標20事例 ②第1・2層協議体や地域ケア会議において地域課題の収集及び検討 課題収集5事例 | ①好事例7件を現地取材により文書化した。 ②協議体では移動手段や買物支援、独居の見守り、ケア会議ではサービスがない日の服薬の管理等の課題が抽出された。 | △ | 今後、好事例をさらに収集し「できること」の気づきにつなげていく。 課題で多く意見があった移動手段については、今後策定予定の交通網形成計画において協議を重ねていく。 |
| 室戸市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 介護予防・日常生活圏ニーズ調査、在宅介護実態調査のアンケートで「いきいき百歳体操」の認知度を調べた結果、「知っている」が74.1%で、そのうち、「知っているが、行ったことはない」が58.8%、「現在、行っている」「以前に行ったことがある」が16.1%と一定の認知度はあるため、参加者をどのように増やしていくのが課題となっている。 本市では各地域において、住民が主体となった百歳体操などを行う「げんきクラブ」が市内に21ヶ所あり、年々増加してはいるが、空白地域や、参加者の高齢化が進んでいる地域がある。また、新たな参加者や前期高齢者の参加が少ないため、住民への介護予防に関する知識や取り組みの普及、啓発が必要である。さらに実施場所を増やすための支援が必要である。 | 住民が主体となって介護予防事業に取り組めるよう、既存クラブにはコーディネーターによる継続支援を行う。未実施の地域や後継者不足の地域においては地区へ出向き、介護予防の必要性等の説明を行うなど実施に向けた働きかけを行う。前期高齢者の参加を増やすため、魅力ある介護予防事業を提案していく。 | ①げんきクラブ、百歳体操実施場所を示した介護予防マップを作成し、市内各所へ貼付、市HPに掲載する。マップについては大幅に変更があればリニューアルする。 ②年1回げんきクラブ交流会、百歳体操交流会を行い、その中でPRビデオを作成し活動を紹介する等住民への周知を行う。 ③げんきクラブの活動で取り入れている、いきいき百歳体操のサポーターを養成する講座を年1回実施し、若い世代が介護予防事業に積極的に関わり参加できるようにする。新規百歳体操サポーター養成数 10名 | ①介護予防マップを作成し、市内各所へ貼付、市HPへ掲載した。更に介護予防の研修等で活用した。 ②げんきクラブ交流会、百歳体操交流会開催(H30.11.10) ③百歳体操サポーター養成講座を開催し、新規サポーター13名養成(H31.2) | ○ | 引き続き介護予防マップを活用し、周知を行う。またげんきクラブの具体的な取り組みの様子を市HPや広報誌へ掲載するなど更なる周知活動を行う。 げんきクラブ交流会、百歳体操交流会を通し活動のPRを行う。 未実施地域においては介護予防の必要性や他地域の取り組み事例を紹介する等行う。 |

| 保険者名 | 第7期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | H30年度(年度末実績) | | | | | | | | | | | |
|-------|-------------------|--|--|---|---|------|---|--------------|-------|------|--------------------------------------|-------|--------|-------|---|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第7期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 | | | | | | | | | |
| 室戸市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 生活支援体制整備事業やボランティアによる介護予防活動を推進していく上で、地域の課題や既に行われているたすけあい事例等の情報提供・発信、さらには実際に課題解決に携わっていく担い手の確保が必要となっています。 本市では平成28年度より、「たすけあい・さわやかサポーター養成講座」を実施しており、地域での介護予防活動をリードし、住民自らが集まりの場を開拓することができる人材の育成を行っています。 現在、42名のサポーターが誕生しているが、本市は広い面積に集落が点在しており、サポーター数の増を急ぐこと、また、サポーターの活躍の場を提供することも課題となっています。 | 年1回たすけあい・さわやかサポーター養成講座を実施する。 | サポーター養成講座による新規たすけあい・さわやかサポーター数30名を目指し、既存サポーターに活躍の場を提供する。 ①幅広い年代のサポーターを養成していくため、市の広報以外に各方面に働きかけていく。 ②サポーターの活躍の場について希望調査を実施。また地域の支援を必要としているニーズを把握し、サポーターの活動の場を調整していく。 ③認知症サポーター養成講座もプログラムに盛り込み、認知症の知識や理解を広げる。 ④百歳体操サポーター養成講座もプログラムに盛り込み、活躍の場の拡大につなげる。 | H30年度たすけあい・さわやかサポーター養成講座を実施した。50代～70代の方が受講され、12名修了(H31年1/30、2/6、2/15) サポーターには修了証とサポーター活動時に着用するユニフォームを授与した。併せて活動の場の希望調査アンケートをとり、活動の場の提供を行った。認知症サポーター養成講座、百歳体操サポーター養成講座もプログラムに盛り込み、活躍の場の拡大につなげた。 | ○ | サポーター数の目標値には達することができなかつたため、次年度は更に各方面に働きかけを行うことが必要。 また、サポーターの活躍の場を増やし、サポーターの活動の様子の紹介もHP等で随時行う。 | | | | | | | | | |
| 室戸市 | ②給付適正化 | 室戸市は、年々高齢化率が上昇しており、平成29年度末時点で47.8%と人口のほぼ半数が高齢者となっている。給付費はこれまでの介護予防事業の成果もあり、近年は減少傾向となっている。 しかし、75歳以上のピークは2026年に迎える見込となっており、今後、介護を必要とする高齢者が、適切な要介護認定を受け、事業者がルールに沿って必要なサービスを過不足なく提供していけるよう、自立支援・重度化防止、介護給付の適正化に取り組む。 | 「高齢者が安心して必要な介護サービスを利用できるよう、制度の持続可能性の確保に努める」 ①要介護認定の適正化 ②ケアプラン点検の実施 ③住宅改修の点検 ④縦覧点検・医療情報突合 ⑤給付費通知 | ①要介護認定の適正化 ・審査会の依頼前に書類の整合性の点検(全件) ②ケアプラン点検 ・書面での点検・ヒアリング(室戸市内の全事業の全ケアマネ) ③住宅改修の点検 ・事前提出の理由書の点検・改修前の現地確認 ④縦覧点検・医療情報突合 ・国保連合会に点検作業を委託し、点検後の一覧を元に事前提出の有無等を確認。(軽度者貸与) ⑤給付費通知 ・全受給者に対して通知(年4回) | ①点検により整合性のない調査項目を作成者に確認し必要な訂正を行った。 ②室戸市内の全事業所の全居宅介護支援専門員のケアプランの書類点検を行い、特に確認の必要なケアプラン作成者に対してヒアリングを行った。 ③現地での確認を行い、改修箇所の問題等がないか確認を行った。 ④国保連合会に点検作業を委託し、点検後の一覧を元に事前提出の有無等を確認。(軽度者貸与) ⑤圧着ハガキを全受給者に対して、年4回送付。 | ○ | ①調査の委託を行う場合があり、周知が困難な場合があるが、今後も同様の確認を行い、適正な審査につながるようにする。 ②今後も引き続き特定のケアプランの抽出を行い、書類点検・ヒアリングを行う。ヒアリングを実施することで、居宅介護支援専門員に気づき等を促し適正な給付につながるよう努める。 ③専門知識がないため、見積書での改修内容が適切かどうかの判断が困難ではあるが、今後も同様に確認を行い適切な改修を確認を行う。 ④国保連合会に点検作業を委託し、点検後の一覧を元に事前提出の有無等の確認を行い、事前提出のないものについては理由を確認する。 ⑤受給者によっては、請求書と勘違いして、連絡をくれる方もいるので、高齢者でもわかりやすいように改善を行う必要があると思われる。 今後も継続する。 | | | | | | | | | |
| 室戸市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | いきいきらくらく体操教室を月4回実施してきたが、月2回は運動指導士による体操指導、残り2回は運動指導士監修の元作成したDVDに合わせて体操を実施してきた。 運動指導士直接指導の回は参加者数が多く、DVDの回は少なくなるという状況が続いていた。 運動指導士に直接指導してもらえる楽しみを持って参加する者が大半で、月2回の参加だけでは継続した介護予防(運動機能向上)につながっていない可能性があり、自立支援に向けた継続的取組みが必要である。 | 運動指導士に直接指導してもらえる楽しみが大きいと、運動指導士による体操指導日を月2回から月4回に増やし、介護予防に継続的に取り組む機会を増やしていく。 | ①運動指導士による運動機能向上のための体操指導を月4回(週1回)実施する。 ②継続して介護予防に取り組む機会を増やす。 参加者数の増加 | ①月4回(年間48回)、健康運動指導士による体操指導を実施することができた。 ②参加者数について <table border="1" data-bbox="1638 1549 2012 1701"> <thead> <tr> <th></th> <th>延参加者数</th> <th>1回当たりの平均参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29年度</td> <td>854人</td> <td>17.8人 (指導士有 25.6人 DVDのみ 10.0人)</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>1,350人</td> <td>28.1人</td> </tr> </tbody> </table> | | 延参加者数 | 1回当たりの平均参加者数 | H29年度 | 854人 | 17.8人 (指導士有 25.6人 DVDのみ 10.0人) | H30年度 | 1,350人 | 28.1人 | ◎ | ・参加者実人数59人のうち、男性が3人と少ない。 男性の参加しやすい内容の検討を行うとともに周知・広報の拡大を行う必要がある。 |
| | 延参加者数 | 1回当たりの平均参加者数 | | | | | | | | | | | | | | |
| H29年度 | 854人 | 17.8人 (指導士有 25.6人 DVDのみ 10.0人) | | | | | | | | | | | | | | |
| H30年度 | 1,350人 | 28.1人 | | | | | | | | | | | | | | |

| 保険者名 | 第7期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | H30年度(年度末実績) | | | | | | | | | | | |
|-------|-------------------|---|--|--|---|------|--|------------------|-------|--------|------|-------|--------|------|---|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第7期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 | | | | | | | | | |
| 室戸市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 体力アップ教室(通所型・運動機能向上)へ週1回、計12回(約3か月)参加することで運動機能向上の効果はみられている。しかし、教室の参加が修了すると教室参加前の状態に戻ってしまうことも多かった。参加者の自宅屋内外の環境、生活状況、身体レベルをアセスメントし、参加者個々に合ったプログラムの変更、追加を行う必要があると考えられる。 | 教室参加前後での自宅屋内外の環境、自宅での生活状況、身体レベルを教室スタッフが訪問にてアセスメントし、教室プログラムに反映させることで、生活し辛い点を改善することができる。自宅で実践してもらえそうな体操、ストレッチ等を教室で実施し、身につけることで自宅での生活習慣として取り入れることができ、教室修了後の介護予防につなげることができる。 | ①教室参加前の自宅屋内外の環境、自宅での生活状況、身体レベルのアセスメント・訪問にてアセスメント ②生活、運動能力の目標を設定し、達成するために、アセスメント内容に応じたプログラムの実施。 自宅実践できる体操、ストレッチ等の紹介、実施。 ③教室参加前後の生活機能評価、運動機能測定を実施し、変化を参加者と確認する。 | ①教室参加前に生活機能評価を実施している。一般介護予防では、自宅訪問を拒否するケースが多く、生活環境を実際に確認できず、聞き取りだけでのアセスメント・評価となっている場合が多かった。 ②生活機能評価に応じ、個々に目標を設定し、達成するためのプログラムを実施した。 ③教室参加前後の生活機能評価、運動機能測定を実施し、前後の変化を参加者と確認し、参加の評価とした。 | ○ | ・参加者全ての者の訪問となっていないため、個々に設定した運動機能向上のためのプログラムが生活環境に合ったものになっているかアセスメントが必要である。 | | | | | | | | | |
| 室戸市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 当市には、室戸海洋深層水を使用した温水プールで、アクアマッサージ、水中ウオーキング、ストレッチなど、水流や水圧を利用した水中運動を楽しめる施設(シレストむろと)が存在。水中運動を通じた介護予防を推進するためには、施設利用のきっかけづくりが必要であり、また、継続のための支援を行う必要がある。 | 当市で実施している特定健診・がん検診の受診者、健康教室等参加者にシレストむろと利用のきっかけづくりとして利用料の約半額を助成し5回利用できる券を申請交付する。また、5回利用後には、継続利用を推進するため、一定期間施設利用できるパスポートを購入でき、半額助成している。 | ①シレストむろと利用のきっかけづくりとして、5回利用券を申請交付できる事業(特定健診・がん検診、健康教室等)を設定し、広報・周知を行う。 ②特定健診・がん検診では、希望者のみ交付、健康教室では、参加者全員に交付。 ③シレストむろとを利用する事業参加者数を増やす。 | 「水中運動で元気になりましょう！」事業 シレストむろとを利用した水中運動のきっかけづくりとして5回利用券を申請交付 「水中運動でもっと元気になりましょう！」事業 5回利用後、継続した水中運動を推進するため、一定期間施設利用できるパスポート購入助成事業 ①②特定健診・がん検診・健康教室等で事業の紹介を行い、幅広い広報・周知を行った。 ③利用延人数は増加傾向。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>元気に なりましょう</th> <th>もっと元気に なりましょう</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29年度</td> <td>1,703人</td> <td>825人</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>1,969人</td> <td>944人</td> </tr> </tbody> </table> | | 元気に なりましょう | もっと元気に なりましょう | H29年度 | 1,703人 | 825人 | H30年度 | 1,969人 | 944人 | ◎ | ・年々、利用延人数は増加傾向にあるが、実人数の増減、新規利用者状況について評価できていない。 ・今後、実人数の増減とともに継続利用につながっているのか評価する必要がある。 |
| | 元気に なりましょう | もっと元気に なりましょう | | | | | | | | | | | | | | |
| H29年度 | 1,703人 | 825人 | | | | | | | | | | | | | | |
| H30年度 | 1,969人 | 944人 | | | | | | | | | | | | | | |